



### 12/5 (火) 元気いっぱいバヤ坊と一緒に遊ぼう

仲西幼稚園にアサヒオリオン飲料株式会社のマスコットキャラクターのバヤ坊が遊びに来ました。バヤ坊が登場すると園児からは歓声が上がり、一緒にカマキリやダンゴムシのポーズをとりながら昆虫太極拳を踊って園は大賑わいでした。その後、全園児にオリジナルコップがプレゼントされ、バヤリースオレンジが振る舞われました。

園児たちは「バヤ坊と遊べて楽しかった。ジュースもおいしかった」と興奮しながら笑顔いっぱいでした。バヤ坊は子どもたちに笑顔を届けるために浦添市内の各幼稚園を回ります。



### 11/27 (月) 輝くてだこ市民賞、第35・36号誕生

輝くてだこ市民賞とは、スポーツ、文化その他の分野で活躍した人に贈る賞です。35、36人目の受賞者は砂辺孝真(左)さんと銘刈盛隆(右)さんです。

2人は沖縄の組踊や琉球舞踊の三線指導者として活動する傍ら、現在も舞台に立ち続けています。それぞれ国から重要無形文化財保持者として認定を受けており、伝統芸能の継承に欠かせない役割を担っています。

今回のてだこ市民賞を受けて、砂辺さんは「これからも一生懸命精進して、また良い報告ができるよう頑張ります」銘刈さんは「砂辺さんと共に頑張る後輩の指導、育成に貢献したいです」と述べました。



### 11/24 (金)～26 (日) 芸術・文化を一堂に楽しめる文化の祭典

日ごろの芸術・文化活動の成果を発表する第36回浦添市文化祭がてだこホールや美術館で開催されました。展示の部は華道・書道・写真など個性豊かな作品が並び、会場では呈茶式という略式の茶席が設けられ、来場者へ本格的なお茶が振る舞われました。

舞台の部は組踊、日本舞踊、ハワイアンなど多彩な演目が披露され、その華やかさに会場は魅了されました。

3日間を通して開催された文化祭は、訪れた人々が様々な文化芸術作品に触れる機会となり、五感を楽しませるイベントとなりました。



### 12/13 (水) 「保育士OKINAWAステイ計画」始動

沖縄への移住と保育士として働きたい思いを市がサポートする「保育士 OKINAWA ステイ計画」が発表されました。

国の基準によると、市内公立保育所に10人程度の保育士が配置できれば、約80人の定員増が見込めます。

市では、これまで関係各所と連携し、オープン保育の実施や保育補助者の設置、保育士の働き方改革宣言、見える化面接会など市内外向けに様々な取り組みを展開。これらにあわせて県外に目を向けて政策を展開していくことで、市民への子育て支援の充実を図っていきます。



### 12/2 (土)～ 冬の夜を彩る贈り物

市役所前の大きなガジュマルにクリスマスイルミネーションが灯りました。今年は電飾数も増え流れ星も登場。

毎年恒例となったこのイルミネーションは浦添電業会の皆さんが企画し、全て電業会の負担で実施しているものです。「市民の皆さんに安らぎを」という思いが込められたイルミネーションの下には、その願い通り、付近を通る人たちが立ち止まり、ゆっくり眺めたり、写真を撮ったりなど思い思いに幻想的な光を楽しむ光景が見られました。



### 11/18 (土) 世界を身近に感じられる楽しいイベント

JICA 沖縄国際センターでおきなわ国際協力・交流フェスティバル 2017 が開催されました。

屋台コーナーではトルコ料理のドネルケバブやトルコアイス、ベトナム料理のフォーなどが販売され、多くのお客さんでにぎわい、異国の味を楽しみました。ファッションショーでは海外ボランティアへ派遣された人たちなどが、現地の服を着用して独特のあいさつや踊りなどを披露し、来場者から割れんばかりの拍手が送られました。その他にも JICA 研修員との交流ブースや参加型の国際理解ワークショップもあり、食べて・見て・参加する楽しい国際交流となりました。



### 11/12 (火) 生かそう 大事な資源 みんなで楽しくリサイクル

人と環境にやさしい浦添の街づくりを目指すリサイクルまつりが、リサイクルプラザで開催されました。あいにくの天気でしたが多くの市民が来場し、フラダンスの優雅な踊りでまつりがスタートしました。

様々な催し物や月桃そばの販売、電化製品の解体体験が行われました。家族で参加した宮里さんは「ゴミの分解・分別を体験してみて、リサイクルには手間がかかることを知った。物を大事にして自分にもできることを実践していきたい」と、疲れながらも笑顔で話しました。